

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二五三五（六・公衆）〇四七二（22）七二〇七

第4回労働学校開かる

七月二七日の第四回労働学校は「核問題を考える」をテーマに、坂本千秋氏（社会運動家）を講師に迎えて開催した。講義は、(1)核問題を考える、(2)核軍拡競争の新たな展開と核戦争の危機「SDI」を中心に、(3)ノーモア・ヒロシマのために、という内容で、約四時間にわたってなされた。
受講生のレポートを紹介する。【編集委員会】

非人道的核兵器は許せない

核の恐ろしさについてはそれなりに知っていたが、今回の講座に参加して、労働者の立場から一歩ふみこんだ知識を得ることができた。
核兵器の恐ろしさは、熱線、爆風による破壊力もさることながら、放射能により広範囲にわたる生命の殺傷、自然破壊をもたらす、生物の生存できない環境にしてしまうことである。
すなわち、地球を滅亡させる兵器であり、人類がごく一部の支配者の私利私欲のために、このような非人道的な核兵器をもつことが許されるのであろうか。
許されるはずがないのだ。

現在の核兵器は、技術の進歩により、広島、長崎に投下された原爆をはるかに超えた破壊力を持つており、その破壊力はメガトン級といわれている。われわれの想像を絶するものである。
この核兵器を積んだミサイルが、ボタン一つで世界に向けて発射できる状態に今、現在あるのだ。数年前、「アメリカの核ミサイルが、たった百円程の部品一つの故障で、発射寸前にまであつた」という事実が報道された。

われわれ人類の生命、ましてや地球の将来までが、ちっぽけな部品一つ一つによっておびやかされていくと思うと、はかりしれない怒りがこみあげてくる。
核武装へ突き進む中曾根

現在、米・ソは核軍拡競争を展開し、世界は核戦争の危機に直面している。もし、大陸間弾道弾

地球上からすべての核を廃絶するまで
『聞きたい』受講感想文 勝浦支部=0さん



が発射された場合、一それをうちおとす技術的手段」と称して「SDI」(戦略防衛構想)といわゆるスター・ウォーズ計画)まで開発されようとしている。「SDI」は、科学的・技術的に確かな裏付けがないにもかかわらず、「核兵器を無力にする」「平和のための武器」などと、デマゴギッシュな宣伝だけを先行させているが、可能性としては核爆発を利用し、X線レーザーまたは、ガンマ線レーザーによって破壊させる方法しかなく、原爆、水爆に続く「第三世代の核兵器」に道をひらくものである。
日本でも、中曾根は軍事大国化・改憲戦争国・家化への道を歩み始めている。この道は最後は核武装へと行くものだ。
ノーモア・ヒロシマのために

われわれは、ノーモア・ヒロシマのために、戦争へと突き進む帝国主義と真向から対決し、「核の平和利用」などということにごまかされず、地球上からすべての核を廃絶するまで、闘わなければならないと痛感した。

次回・労働学校 第五回講座 ご案内
とき 8月31日(土) 13時半〜17時半
ところ 動力車会館
テーマ 『資本主義と社会主義について(その2)』
講師 経済学者・村越敬二氏

日刊勤労千葉が優秀賞を獲得

第8回県連機関紙コンクール

七月二四日、第八回県連機関紙コンクールが行われ、審査の結果、「日刊勤労千葉」は第一種で優秀賞を獲得し、十月二日に開催される第三二回県連定期大会で表彰されることとなった。

成績は次のとおりである。

- 最優秀賞 「こぶし」 富士電機労組
- 優秀賞 「日刊勤労千葉」 勤労千葉
- 佳作 「鉄環」 川鉄労組
- 努力賞 「国労ちば」 国労千葉地本
- 「自治労千葉」 自治労千葉県本部

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!